

近代英語協会ニュースレター

2021年(令和3年)2月15日

近代英語協会事務局分室

〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池12

愛知学院大学文学部前田研究室内

協会ホームページ <http://www.modernenglish.jp/index.html>

電話: 0561-73-1111(内線 3264)

年会費振替口座 00810-9-5821

1 近代英語協会第38回大会について

次回大会は、現時点では、2021年6月26日(土)、愛知県名古屋市の南山大学において開催を予定しております。ただし、昨今の新型コロナウイルスの感染状況を勘案しますと、zoomを用いたオンラインでの大会開催なども視野に入れざるをえない現状です。オンライン開催の場合は、前回大会のように、開催日を8月に遅らせる可能性もあります。大会の開催方式等につきましては、他の学協会の動向も睨みながら、理事会での審議を経たうえで5月の初旬までにHPで告知し、詳細を全会員に郵送いたします。

シンポジウムにつきましては、“How the peripheral survived the age of standardization: Three diachronic cases in the history of English”(「周辺表現はどのように英語標準化時代を生き抜いたのか—3つの事例から考える—)」という共通テーマの下、司会・講師として柴崎礼士郎先生(明治大学教授)、講師として、堀田隆一先生(慶應義塾大学教授)、渡辺拓人先生(関西学院大学助教)にご発表いただきます。

また、今後、新型コロナが収束し、外国からの入国制限が緩和された場合、特別講演は、近・現代英語のコーパス言語学とクレオール研究で名高い、ドイツ連邦共和国フライブルク大学のChristian Mair教授をお招きします。氏は、講演・口頭発表を除き、120点を越える業績を有する方で、2010年以降だけでも、単著5、共著4、著書分担執筆27、論文19を公刊し、精力的に活動しています。E. C. Traugott, D. Denison両氏の後を受け、The International Society for the Linguistics of Englishの第3代会長を務めました。当日は、“Ongoing change in Modern English: new language, new corpora, new concepts”と題する講演をお願いしてあります。また、氏には朝一番から大会に参加いただき、午前の部のシンポジウムを盛り上げていただくために、質問およびコメントをお願いしてあります(そのため、シンポジウムの司会・講師の3人には、英語による発表と、日本語によるまとめをお願いしてあります)。また、空き時間には、氏の著書を持参された会員の皆様の本に、直筆でサインしていただけるようお願いしてあります。氏に関する情報は、URL(https://www.researchgate.net/profile/Christian_Mair)をご参照ください。外国人の入国制限が依然として厳しい場合には、別の企画を模索したいと思います。

個人研究発表の締め切りは、すでに協会HPにてご案内しましたとおり、2021年1月31日(日)でした。発表者数に若干ゆとりがありますので、2月末日まで再募集いたします。先着順に締め切らせていただきますのでご了承ください。発表をご希望の方は、(a) 発表題目と400字程度の要旨、(b) 氏名・所属・職位・略歴・連絡先(住所、電話番号、Eメールアドレス)・大会発表助成金希望の有無(※参照)を別文書として作成し、下記の(ア)、(イ)いずれかの方法でご応募ください。様式は、協会ホームページ

にあります。なお、本協会の趣旨により、発表内容は近代英語の研究、あるいは近代英語を含む英語の歴史的研究に資するものとしてください。

(ア) Eメール添付による応募

- ・ (a) 特殊文字を使用される場合はMSWord文書、及びそのPDFファイルを添付
- ・ (b) 特殊文字を使用されない場合はMSWord文書のみを添付

宛先 m-maeda@dpc.agu.ac.jp

(イ) 郵送による応募

- ・ (ア) の (a) または (b) のいずれかを記憶したCD-R
- ・ 打ち出し原稿

宛先 〒470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12

愛知学院大学文学部 前田 満

※ 大会発表助成金制度について

本協会では、大会参加への費用を軽減し、若手研究者を中心に大会発表を奨励するため、大会発表助成金制度を設けております。助成対象となるのは、発表を行う大学院生・常勤職のない会員（発表を行う年の4月1日時点で満37歳以下または修士号取得後10年以内で、所属機関等より大会会場への交通費の補助を受けていない者）とさせていただきます。また、助成金額は、自宅から大会会場までの国内交通費（往復）とし、交通費の計算は協会事務局の方でいたします。なお、申請方法は、大会発表の受理後に、申込用紙（発表応募時に希望を明記）に詳細を記入し、事務局にご提出下さい。多くの発表の応募をお待ちしております。

2 『近代英語研究』第37号の発行について

5編の論文、4編の研究ノート、3編の書評のご投稿がありました。ご応募いただきありがとうございます。編集委員会の厳正なる審査結果は次のとおりです。2021年6月の発行を目指して、現在編集作業が進められております。

	論文	研究ノート	書評
掲載可	0	1	1
再審査	3	0	2
掲載不可	2	3	0

3 『近代英語研究』掲載論考の転載（および刊行）許可申請手順について

『近代英語研究』に掲載済みの全ての論考の著作権につきましては、本協会に属するというご理解いただきたいと思います。ただし掲載済み論考を著者の方がご自身の学位論文へ転載を希望される場合、

あるいは、その論考が転載された学位論文の刊行を希望される場合もおりかと推察されます。そのような場合につきましては、編集幹事宛に所定の許可願をご提出いただければ、協会から許可書を発行させていただきます。ご希望の方には申請書をお送りいたしますので、論文投稿用のメールアドレス (mode.assoc@gmail.com) まで E メールにてご連絡をお願いいたします。

4 『近代英語研究』投稿規定の趣旨について

大会個人研究発表の趣旨と同様に、『近代英語研究』投稿におきましても、協会趣旨を明確に反映するために、既に第 35 号より論文および研究ノートの趣旨について、以下の通り改定がなされておりますので、今後ともご承知の上で、ご投稿をお願いいたします。

論文の趣旨:

近代英語の研究、あるいは近代英語を含む英語の歴史的研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。先行研究を十分に参看し、確かな研究テーマを設定し、精緻な分析を行い、明確な根拠に立脚し、新しい知見に富んだ独創的論考であること。

研究ノートの趣旨:

近代英語の研究、あるいは近代英語を含む英語の歴史的研究に資する内容のものであり、未発表のものであること。確かな研究目的を示し、その学問分野における新しい知見、展望ないしは方向性を予感させる内容を含んでいること。

5 『近代英語研究』第 38 号の投稿締め切りについて

第 38 号 (2022 年 6 月発行) 投稿締め切りは 2021 年 9 月 15 日 (水) となっております。ふるってご応募ください。審査はすべて匿名で行われます。応募要領については、協会ホームページに掲載の最新の「投稿要領」あるいは協会誌第 37 号 (2021 年 6 月発行) に掲載される「投稿規定」をご覧ください。特に、従来と以下の点が異なっておりますのでご確認ください。

- ・「投稿規定」に定める、総字数の数え方の補足説明の追加および投稿前の留意点の追加
- ・「執筆者情報ファイル」の様式の変更 (研究対象分野、研究対象キーワード等の記載欄を追加)

ご投稿の際は、必ず原稿および執筆者情報を論文投稿用メールアドレス (mode.assoc@gmail.com) まで 2 つの別々の電子ファイルでメール添付にて送付してください。打ち出し原稿のご送付はお控えください。なお、英語論文に関して、英語を母語としない投稿者については投稿前に必ずネイティブ・スピーカーによる原稿のチェックを受けた上でご応募ください。また、学会誌への二重投稿はお控えください。

6 編集委員の交代について

2020 年 3 月末日をもって、編集委員をお勤めいただいた上利学先生、久米祐介先生、中川直志先生、西原哲雄先生、野村忠央先生、矢橋知枝先生の 5 名 (五十音順) が任期満了となります。2 期 4 年間にわたり編集委員会の運営にご尽力いただき、誠にありがとうございました。また、西原先生には 2018 年度

と2019年度、中川先生には2020年度の編集委員長も務めていただきました。心より感謝申し上げます。

これを受けて、編集委員会では、後任の編集委員として6名を選出し、縄田裕幸先生（島根大学）、平井大輔先生（近畿大学）、保坂道雄先生（日本大学）、松沢絵里先生（大阪芸術大学）、村田和穂先生（有明工業高等専門学校）、家口美智子先生（金沢大学）（五十音順）から就任の承諾をいただきました。新編集委員長につきましては、互選により選出を行っているところです。決まり次第、本協会ホームページ、および次号のニューズレター（2021年9月発行予定）にてお知らせいたします。

7 近代英語協会最優秀新人賞ならびに優秀学術奨励賞について

賞には、最優秀新人賞と優秀学術奨励賞の2種類があります。若手による当該年度の掲載論文の中から、前者は特に優秀な論文に、後者は、最優秀新人賞には至らないが将来性があり優れていると評価された論文に与えられます。最優秀新人賞には表彰状と記念品が、優秀学術奨励賞には表彰状が授与され、その榮譽が讃えられます。

選考対象は、「協会誌への掲載が可となった、投稿締切日時点で37歳以下の、または修士号取得後10年以内の執筆者による論文です。選考希望の意思表示のため、論文投稿の際、「執筆者情報ファイル」内の項目3の該当欄に「○」をご記入ください。

8 『近代英語研究』電子アーカイブ化

J-STAGE（独立行政法人科学技術振興機構）に、『近代英語研究』が電子アーカイブ化されております。パソコン等でサイトにアクセスすると、創刊号から第24号（2008）までの論考を、現在ご参照いただけます。近代英語協会ホームページ <<http://www.modernenglish.jp/index.html>> 左下の「協会出版物」からのリンクが便利です。

なお、第25号（2009年発行）以降の論考については、現在掲載の準備を行っております。また、『近代英語研究』の冊子と同様に、すべての著作権は本協会に帰属することをご了解いただきたく存じます。

9 ホームページの図書紹介欄について

会員の皆様が出版された文献を本協会のホームページでご紹介いたします。その際、自薦、他薦は問いません（他薦の場合は著者の了承を得てください）。紹介したい著書（翻訳本も可）のタイトル、表紙の写真、および紹介文（800字程度まで）を添付し、IT管理の柳朋宏先生まで電子メールでお送りください。なお、書籍の実物の事務局への送付はお控えください。

10 会費納入のお願い

近代英語協会は、皆様の会費により運営されております。会費が未納の方は、恐れ入りますが、速やかにご入金くださいますようお願い申し上げます。なお、3年間未納の場合は、規定により退会となりますのでご注意ください。1月末日時点において会費の未納がある場合は、振込用紙を同封いたします。行き違いの場合はご容赦ください。

11 終身会員制度の導入について

終身会員の申込資格は次の(1)、(2)のいずれかとなります。

- (1) 66歳以上、または当該年度中に66歳になる会員で、過去10年間会費を全納した会員
- (2) 顧問として承認された会員

申請の際には、所定の申請書を提出し、終身会費3万円を払ってください。申請用紙、ならびに払込用紙は事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてご請求ください。申請された年度より年会費は不要となります。終身会員には大会の懇親会に無料で参加できる特典もあります。

12 所属、および連絡先通知のお願い

所属、および連絡先（住所、Eメールアドレス等）に変更があった場合は、速やかに事務局長（前田）までメール（m-maeda@dpc.agu.ac.jp）にてお知らせください。学生会員の方が学生の身分を終えられた場合も、会員種別が「学生会員」から「一般会員」へ変更となりますので、ぜひメールにてお知らせください。 よろしくお願いたします。

13 第2代会長、中野弘三先生の思い出

当協会の元会長であり、また、私（前田）の恩師でもある、名古屋大学名誉教授の中野弘三先生が昨年4月16日午前、83歳でお亡くなりになりました。何の前ぶれもない、先生の突然の訃報に、教え子の1人として強いショックを受けました。コロナ禍の渦中ということで、葬儀はご遺族のみでひそやかに行われたと伺っております。中野先生のご逝去を悼み、事務局一同、深くご冥福をお祈り申し上げます。さて、先生のご業績・ご事績等については、会員の皆様もよくご存じのことと思いますので、私の方からは、この場をお借りいたしまして、30年におよぶ先生とのお付き合いの思い出について、エピソードをまじえてお話しさせていただきます。

中野先生との初めての出会いは、1989年、私がまだ大学4年生のときのことでした。当時、南山大学に在学中であった私は、名古屋大学文学部の英語学教室に進学を決意し、名古屋大学の研究室まで故天野政千代先生に相談に伺った際に、中野先生をご紹介いただいたうえで、「中野先生は南山大学で非常勤講師をされているので、進学後の研究テーマ等についてご相談してみなさい」とアドバイスをいただきました。さっそく南山大学での先生の授業後に、緊張しながら先生のもとに相談に伺いました。そこで初めて先生が意味論を専門にされていたことを伺い、また卒業論文や大学院進学後の研究テーマについては、先生ご自身の得意分野でもある、英語法助動詞の史的発達などはどうですか、と親切にご教示いただきました。その時の先生の印象としては、たいへん優しそうで紳士的な方だと感じました。

さて、名古屋大学の大学院に進学した後は、直接先生から教える教え子の立場となりました。進学当時の私にとって英語学研究室の授業はレベルが高すぎ、進学して最初の半年ぐらひはまさにアップアップで、ただただ必死に勉強した記憶しかありません。その中で、中野先生は困惑する劣等生の私にも優しく手を差し伸べ、様々な有益なアドバイスをいただきました。そのおかげで私がどれほど励まされたか

は、皆様のご想像におまかせます。ともかく、その時の先生の励ましがなければ、現在の私の研究生活はなかったと、今も先生には心から感謝しております。

皆様もよくご存じのとおり、中野先生はたいへん情深く心優しい先生でしたが、一方で、学問的には予想外に厳しい面をおもちでした。授業中、後期課程の先輩方が先生にたいへん厳しいご指摘を受けることもありましたし、私自身、研究発表の際に実に厳しいお叱りをいただいたことも1度や2度ではありません。協会の皆様の中にも、大会の研究発表の質疑応答で、先生が発表者の方に厳しい質問を浴びせる姿をご記憶の方もおられるかと思います。実際、研究に関しては、先生ほど厳しい方をあまり見たことがありません。私としても、先生にご指摘をいただき、精一杯の努力をしてきたつもりですが、お亡くなりになるまでの30年近いおつきあいで、こと研究のことで先生にお褒めいただいたことはわずか2、3度しかなかったと記憶しております。

私事ですが、数年前に児馬先生の指導のもとで博士号を取得した際、中野先生には外部審査員として博士論文の審査に加わっていただきました。その折にも、大学院を卒業して何十年ぶりに、研究のことで先生に厳しいお叱りを受けました。その時は、こんな年になってもこんなふうに叱られるのか、とかなり鬱々としたのですが、先生にとっては卒業して何十年たっても「教え子は教え子」というスタンスのようです。そのときのご様子はまさに大学院に在籍中の先生のご指導を彷彿とさせるものがありました。ともあれ、ご体調が悪い中、わざわざ私のために東京までお越しいただいた感謝は今も忘れられません。しかし、その時お話ししたのが私にとって先生の最後の思い出となりました。また、数年前に、先生のご依頼で慣れない分野での原稿を寄稿したとき、なんとか形になった原稿を先生にお送りしたところ、一週間後にA4 3枚にもおよぶ、『近代英語研究』の査読をはるかに超える厳しい質問・コメントをいただき、それにお答えするのに文字どおり四苦八苦した経験もあります。

しかし、先生にはユニークな側面も多々ありました。まず、普段は穏やかな先生がいちばん愉快で快活に見える瞬間は、学会の懇親会などでお酒を飲んでいるときです。かなり酔いながらも、饒舌さを失わず、かなり難しい英語学の話をつってこられるのですが、こちらもすでに酔っていて、互いに何の話をしているのかわからなくなることもしばしばでした。また、酒に酔うと、普段の先生とは絶対にできないような内容のお話になり、思わず先生の知られざる一面を知ることもよくありました。場合によると、酒の席で過分に褒めていただくこともありました。翌日には確実にお忘れなので、あまり嬉しい気にもなりません。もう一つ、先生のユニークな側面をうかがい知るエピソードがあります。お恥ずかしながら、20年ほど前、私自身の結婚式の際に、スピーチをいただいたときのことで。家内の名を「教子」（きょうこ）というのですが、先生はそこに目をつけられて、「前田君はいい奥さんをもらった。「教子さん」というぐらだから、いろいろ教えてもらえそうだ、いや教えてやってください」としゃれをいわれたのも今では懐かしい先生の思い出です。

以上、先生とのいくつかのエピソードを述べてきましたが、先生は私の研究生活の基礎を築いていただいた大恩人です。1人の教え子として、先生の教えを胸に、先生の功績を広く宣揚していけるよう努力していく所存です。心より中野弘三先生のご冥福をお祈りします。

14 事務局より

会員の皆様、本年もなにとぞ宜しくお願い致します。皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。今年度は新型コロナにはじまり、新型コロナに終わるといふ、ともかく新型コロナに始終する1年となりそうです。現在も東京圏を中心に感染の拡大が収まらず、先月には緊急事態宣言が発出され、いまだ先が見えない状況になっております。その勢いは最初に緊急事態宣言が出されたときをはるかに超え、今後も新たな感染の波が続く恐れがあります。この状況からしますと、来年度も新型コロナの影響は、大学業界や当協会をはじめ研究団体の運営に多大な影響をおよぼすことは必至であろうとさえ思われます。目下の状況では、今後も新型コロナの影響については見通が暗く、次回大会の開催についても、zoom などICTを用いたオンライン開催の可能性を模索せざるをえません。こうした先の見えない状況下ですが、事務局としては、世界全体がコロナ禍という長いトンネルを1日も早く抜け、今年の大会で皆さんにお会いすることを切に望んでおります。

— 事務局長 前田 満

なお協会に関するお問い合わせは、下記の連絡先までお願い致します。

- 協会誌について
船田佐央子 鈴木大介 (mode.assoc@gmail.com)
- ホームページについて (会員の出版された図書紹介もお寄せください)
柳朋宏 (yanagi@isc.chubu.ac.jp)
- 会費について
横越 梓 (yokogoshi@nitech.ac.jp)
- その他全般について
前田 満 (m-maeda@dpc.agu.ac.jp)